

## 小学生の部

### 動物へのかんしゃ

作新学院小学部 三年

岡本 一城 おかもと かずき

ぼくは、ソーセージが大すきです。自分でソーセージが作りたくて、ぼく場につれて行ってもらいました。ひつじや牛、馬、たくさんのかわいい動物たちに会いました。そして、ソーセージを作る時間になりました。ぼくは、ワクワクして部屋に入りました。テーブルの上には、色々なざい料がならんでいました。ぼく場のお姉さんが、ざい料のせつ明をしてくれました。

「まずぶたひき肉、氷水、しお、こしょう。そしてこれは、ひつじのちょうです。」

それを聞いて、ぼくはドキッとしました。

「ソーセージって、ひつじのちょうをつかっているの。」

さっき、ぼくの目の前を歩いていたひつじです。ぼくが、えさをあげたひつじです。

「かわいいね。」

と、なでたあのひつじのちょうです。こんなにかわいいひつじのちょうを食べていたなんて、びっくりしました。そして、食べてしまうのは、かわいそうだと思います。

でも考えてみると、ソーセージに入れるひき肉は、ぶたのお肉です。それ以外にも、ぼくは毎日牛やぶた、とり、色々な動物のお肉を食べていた事に気づきました。ぼくと同じように生きていた動物のお肉です。動物も人間も、みんな同じ大切ないのちです。そのいのちをもらって、動物のお肉を食べてしまっているのかぎもんに思いました。でもぼくは、お肉を食べないと大きくなれません。大すきなソーセージやお肉が食べられないとかなしいです。ぼくは、ぼく場のお姉さんに聞いてみる事にしました。

「かわいがっているひつじのちょうを、食べていいんですか。」

ぼく場のお姉さんは、

「ここでは、みんなに美味しいとよろこんでもらうために、ひつじをそだてているんだよ。ひつじも、みんなが美味しいとよろこんで、のこさず食べてくれるとうれしいと思うよ。だから、今から作るソーセージもいっぱい食べてね。あと、ひつじの毛でセーターも作っているんだよ。」

それを聞いて、ぼくは、ほっとしました。

ぼくの学校では、きゅう食の前においのりをします。食べ物へのかんしゃと、のこさず食べます。とおいのりします。家でもごはんの時に、

「いただきます。」

「ごちそうさまでした。」

とあいさつをします。ぼくは今まで、食事を作ってくれた人へのかんしゃだと思っていました。ですがこの言葉は、ぼくたちのためにいのちをくれた動物たちへのかんしゃの言葉でもあったのだと思いました。そして、とても大切なあいさつだと気づきました。

そして、ぼくが学校にしょって行くランドセルは、牛のかわから作られています。習字のふでは、馬やいたちの毛です。お肉だけでなく、ぼくたちがふだんつかっている物の中には、動物から作られている物がたくさんあることにおどろきました。ぼくたちは、こんなに動物たちにささえられて生きているんだと気づきました。

動物たちからもらった大切ないのちのおかげで、ぼくたちは生きていられます。今のぼくにできることは、食事はかんしゃしてのこさず食べる事。物を大切につかう事。動物たちに、今までい上にかんしゃして、かわいがってあげる事だと思います。動物たちにもらったいのちを、むだにすることがないように大切にしていきたいです。